

株式会社藤里開発公社の平成30年度上半期経営状況について

株式会社藤里開発公社の平成30年度上期（4～9月）の経営状況について、12月定例議会で報告しましたので公表します。

平成30年度上半期において、藤里開発公社は定期的な部門長会議を中心に位置づけ、営業方針の企画策定や業務改善、経費の削減を実施してきました。

全体の売上高では、前年比95.2% 7,516千円の減となりました。

減収の主な要因は、昨年度から始めた加工部門の「山芋皮向き事業」が、取引先の人員確保難の影響で本年4月から受注が1/3に縮小されたことによるもので、減収の約9割を占めております。なお、人員確保の問題はホテルゆとりあ藤里・健康保養館でも同様で、従業員の確保が困難な状況が続いております。

売上原価は、前年比97.9% 820千円の減となり、販売費・一般管理費は、灯油単価の値上がりや6月の豪雨による水生産部門の保守点検費用などがあったものの、前年比99.0%1,143千円の減となりました。

全体の営業損益は2,588千円のマイナスとなり、前年比87.2%5,553千円の減収となっています。

町補助金を含んだ経常利益は23,150千円となり、前年比の72.2%で8,890千円の減となりました。下半期においても、赤字圧縮を目指し、更なる改善に努めることとしております。

平成30年度上半期決算状況

(単位：千円)

科 目	H30実績	H29実績	比 較
売 上 高	128,251	129,977	△1,726
加 工 手 数 料	4,664	10,855	△6,191
指 定 管 理 料	17,934	17,533	401
総 売 上 高	150,849	158,365	△7,516
売 上 原 価	39,660	40,480	△820
売 上 総 利 益	111,189	117,885	△6,696
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	113,777	114,920	△1,143
営 業 損 益	△2,588	2,965	△5,553
営 業 外 収 益	27,532	32,065	△4,533
営 業 外 費 用	1,794	2,990	△1,196
上 半 期 純 損 益	23,150	32,040	△8,890

主な事業、実績概要につきましては、以下のとおりです。

●ホテル部門

4月は観光客が少なかったものの、仏事等による売上が多くありました。また、GW中の宿泊は好調でしたが、5月中旬以降はあまり伸びませんでした。6月は、団体客が落ち込み、個人客が中心となりました。7月に入り観光客と団体の研修利用により宿泊・宴会とも好結果で、8月は、お盆の帰省客・仕出し料理の注文や懇親会などで売上げ増となりました。9月は、昨年の「ねりんピック」のようなイベントはなかったものの、会社の研修利用と懇親会などの利用が多くありました。

下半期は、冬期の企画イベント・おせち料理・忘新年会プランなどにより売上げ確保を図ってまいります。

●健康保養館

入館者数は昨年比で1,265人の増となりましたが、客単価が伸びず、売上げ増に繋がりませんでした。また、一般管理費は、特に灯油の高騰により光熱費が大きく増加しました。経費節減策としてサウナの敷材をウレタンに変えたり、シャンプーなどの見直しを実施しました。

下半期においては、ゆず湯や餅つきなどのイベント実施や、無料送迎バスの始発場所見直しにより利用促進を図ります。

●加工センター

「山芋皮むき事業」と「乾燥まいたけ」の大幅な受注減により売上げが減少しました。「白神ラム」はPRの成果が現れて販売は好調ですが、生産頭数に限りがあるため売上高は頭打ちとなっています。新作アイスの開発・販売やPBアイスの開発販売も始め、道の駅などでの販売拡大に努めております。

●水生産販売部門

売上高は昨年とほぼ同じとなっています。6月27日の豪雨による水の濁り対策のため、1ヶ月間生産の休止を余儀なくされたことから、思うように売上げを伸ばすことができませんでした。下半期は、作業時間の管理及び資材ロス削減を徹底して一般管理費の圧縮に努めていきます。